

いもち病・カメムシ類の発生に要注意！

1. いもち病 早期発見・早期防除に努めましょう！

本年は県内全域にいもち病の発生予察注意報が発表されており、湖北地域でも葉いもちの発生を認めています。葉いもちは穂いもちの発生源となります。例年いもち病が発生しやすいほ場を中心に見回り、発生が認められた場合は必要に応じて防除しましょう。

※7/12 県病害虫防除所発表の病害虫発生予察注意報第2号参照



写真：葉いもちの病斑とすりこみ症状の発生例

2. 斑点米カメムシ類

防除は出穂10日後頃(粒剤は出穂7日後頃)に行いましょう！

○生育状況と防除時期

本年は畦畔における斑点米カメムシ類の発生が多い傾向にあります。適期に防除を実施しましょう。

薬剤防除の適期は、出穂7～10日後です。粒剤を施用する場合は、田面を露出させない程度に浅く湛水して、散布しましょう。



写真：滋賀県病害虫防除所

○斑点米カメムシ類の防除時期の目安

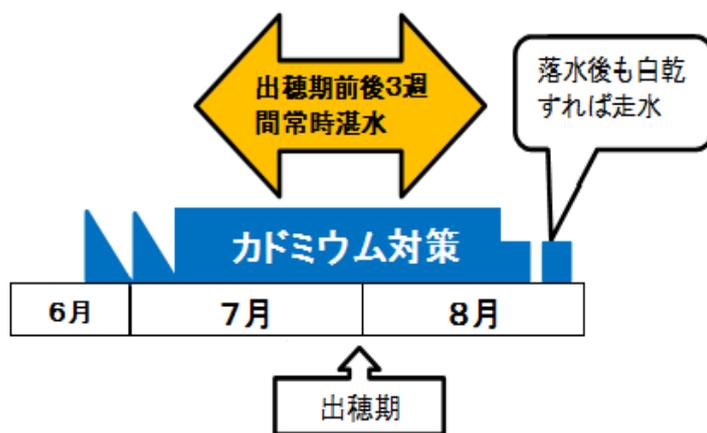
品種	移植時期	出穂期予想	防除時期	
			粒剤	粉剤・液剤
みずかがみ	4月下旬～ 5月上旬	7/17～20	7/24～27	7/27～30
コシヒカリ	5月上旬	7/25～27	8/1～3	8/4～6

「みずかがみ」は、防除時期が「コシヒカリ」より早いので注意!!

雑草管理が不十分な畦畔でイネの出穂期以降に草刈りを行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになり、被害が増大する恐れがあります。やむなく行う場合は、薬剤防除直前に実施しましょう。

3. 出穂前後各3週間は「湛水管理」を確実に

- ・湛水管理は米の品質向上とカドミウムを吸収させないために重要です。
- ・排水口を閉じ、かけ流しをせず、田面が露出しないように管理しましょう。



※5月上中旬植での水管理のイメージ
(コシヒカリ)

**《熱中症に注意：作業中は、
こまめな塩分・水分補給と適度な休憩を！！》**